

# 読売新聞 2月24日掲載分

## 高垣真路の TeeBreak

### コースデザイン

1975年(昭和50年)から日本のゴルフ場の様子が劇的に変わり始めます。“帝王”と崇められ、世界のゴルフ界に君臨したアメリカのプロゴルファーが日本で初めてコース設計をし、日本では不可能と言われていたデザインをこの年披露したので

な池を人工的に作り、1面で大きく、ポテトチップと表現されるアンジュレーションをつけ、そしてその周りはガッチリと城を守るお堀のようなバンカーを配置するようになりました。そのきっかけとなったのが栃木県にニューセントアンドリュースGCがオープンしたところなんです。

(PGAティーチングプロA級)

### 広告

場所にも巨大会場も、戦略的にもつきびしい

それまでの日本のゴルフ場は、戦略に関する池はほとんどなく、グリーンは丸くて平らな2面を用意し、正面にバンカーがあるだけで難コースと言われ、戦略的にもつきびしい



このコーナーは西の森ゴルフパークの提供による、契約プロ・高垣真路プロのコラムです。



ニューセントアンドリュースGC・outNo8.

毎週月曜日・金曜日 ※祝日は除きます。

# サーピス DAY

個人レッスン・各種ゴルフ教室

西の森ゴルフパーク 宇都宮市 駒生町1780-1

西の森ゴルフ 検索 ☎028-652-3344

この「高垣真路の TeeBreak」は、「読売新聞栃木版」に毎月最終金曜日に掲載されています。